

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101846		
法人名	有限会社　であい		
事業所名	グループホーム　であいの郷長住		
所在地	〒811-1362 福岡県福岡市南区長住6丁目7ー29		Tel092-512-2562
自己評価作成日	平成23年2月9日	評価結果確定日	平成　23年03月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成 23年03月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は民家を改修した6名定員の家庭的なグループホームです。その人らしい生活を大切にしたいケアを目標に、お年寄りが主体となり、ご自身の生活リズムでゆったりと過ごせるよう配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の閑静な住宅地の中に、民家改造の家庭的な雰囲気のグループホーム「であいの郷長住」がある。定員6名のホームで、利用者と職員は、家族の一員として、心配したり、心配されりの関係を作り、家族を含めた信頼関係は、深い絆で結ばれている。家庭的な玄関から、季節感を演出した手づくりの作品を飾った廊下伝いのリビングでは、利用者と職員の和やかな会話と、笑い声が聞こえ、楽しそうである。管理者は、利用者一人ひとりが、自由に、のびのびと、生きがいを持って暮らしてもらう支援を、優しく見守りながら、職員と共に介助していくことを目指し、職員間のチームワークや技術の向上を図っている。また、公民館行事や運動会、ふれあいサロン参加や、小中学校の体験学習等、開設6年目を迎え、地域に密着したグループホームとして、活発な活動が始まっている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活を大切にやさしい介護を目指します」を理念に、日々のサービスに取り組んでいる。	「その人らしい生活を大切にやさしい介護を目指します」を理念として共有し、地域生活の中でその人に合った対応ができるように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事や地域の運動会に参加している。	町内会に加入し、公民館のいきいきサロンや地域の運動会への参加、小中学校の体験学習の受け入れ等の交流を図っている。また、管理者は近隣住民からの介護相談やサービスの紹介にも対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者の方への挨拶や声かけ、必要に応じて生活相談にのっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、必ず利用者の状況・サービス内容・取り組みなどを報告し、意見交換を行い、そこで頂いた助言をもとに、実践に活かしている。	会議は、地域包括支援センター、男女共同参画協議会、家族等の参加が見られるが、町内会長と民生委員の出席率が低調である。今後はメンバーの選定に向けて有識者の参加や会議の充実を図っていく。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と必要に応じて情報交換等を行い、サービスの向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターを基軸に市町村との連携が築かれている。一方ベテラン職員の優れたスキルや着想などの能力活用の機会が少ない。	管理者の有する介護知識やスキルの伝承、および相談業務など、ホーム以外でも市町村との連携による地域貢献が期待される。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を実施し、日々のケアについても確認し合っている。	研修を実施し、身体拘束の内容とその弊害を認識しており、身体拘束および言葉の虐待をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を開催し、理解を深めている。それを通して日々の実践の中でも、馴れ合いになっている部分や無意識の中での虐待に繋がりかねない事柄について、細かく注意を払い、話し合う機会を作っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体で地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について勉強会を開催し、必要に応じて、家族に説明している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について、資料を整備し、勉強会を開催し、必要に応じて家族に情報提供と説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明と時間を重ね、納得してもらう。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とはお茶の時間等に1対1でゆっくり話せる時間などを工夫している。家族については来訪の際に近況をファイルに目を通して頂きながら説明しゆっくり面談できる時間等を工夫している。	年末に家族会を兼ねた運営推進会議を開催し、本人、家族の意見・要望を聴く機会を作っている。日常的には家族の来訪時に、ゆっくりと面談できる時間等を工夫し、近況の説明と要望の把握に努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフミーティングを行っている。	毎月1回のスタッフミーティングでは、職員の発言が活発で、意見や提案が、ホーム運営に反映できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談を行ったり、コミュニケーションを図ることで、各自が向上心を持って働けるよう努めている。(各スタッフ1年の目標を提出)		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々に面談を行いながら話を聞いたりアドバイスを行ったりしている。また、スタッフの懇親会なども行っている。	管理者は職員との個別面談を行い、悩みや要望に対応している。また、年間計画に基づき、内部研修と段階に応じた外部研修に全職員が参加しており、満足度が高い。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権教育等については会社全体での研修を行い、日々のサービスに繋がるよう確認しあっている。	利用者の人権を尊重するために、全社的に職員等に対する人権教育の研修が実施されており、職員の人権意識は高い。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修にはスタッフ全員が均等に受講できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会がある。(ふれあい会など)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か来所していただき、ゆっくり本人の思いに耳を傾けている。相談・入所までについては時間をかけ接している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との時間をもつことと平行して、家族の悩み・希望などもゆっくり聞いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の相談内容に合った、サービスの紹介なども含め、対応している。(自社のデイサービスや訪問介護などの利用など。)		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事等をする中で、昔の知恵を教えて頂くなどしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会・家族会にはできるだけ参加して頂くようにしている。また、体調不良時・急変時にはすぐに連絡し、家族も一緒に通院・付き添いなど依頼している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの関係や場所を知り、入居したことによって途切れる事のないよう、家族の協力も得ながら、関係の継続に努めている。(日曜礼拝・親戚・友人の来訪)	日曜礼拝や、入居前に利用していたデイケアや行きつけの美容院へのお出かけ、親戚や友人の来訪など、一人ひとりの生活習慣を尊重し、継続的な交流を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で一緒に過ごす時間を持ち、一緒に家事も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取り合ったり、遊びに來たり、相談を聞いたり等の関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、1対1でゆっくり思いを聞く時間を工夫している。	声かけと傾聴に努め、利用者の発する言葉や表情などから思いや意向を把握し、本人本意の介護サービスの実現を目指している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、病院、ケアマネージャー等に話を聞き、アセスメントをとっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、ミーティングなどを通して、現状の把握・課題の抽出などを総合的に把握できるよう努力している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族、スタッフを含め、日々こまめに話し合う時間を持ち、主治医からの意見やミーティングでの課題などをもとにした介護計画書の作成に努めている。	本人・家族、スタッフを含め、主治医からの意見やミーティングでの課題などをもとに介護計画を作成している。毎月アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、計画の見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・気づき・工夫など細かく個別記録や日誌に記録できている。また、ミーティングにて情報共有し、介護計画への反映にも繋がっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のミーティングごとにモニタリングを行い、状態の変化が著しい時には、本人・家族・スタッフ・主治医との話し合いを持ち計画書の見直しを行っている。また急変時にはそれに即した細かい話し合いを持ち、適宜現状に即した計画書を作成し支援に繋げている。また、それに伴い、要望に応じた家族の泊まりこみ等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験など受け入れを行っている。また、地域の方々の参加で消防訓練も行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による週1回の往診により、必要な医療的管理を行っている。また、必要に応じて受診したり、定期健診も行っている。	協力医および歯科医の週1回の往診により、適切な医療支援が行われている。また、必要に応じて病院受診や、定期健診を実施している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体状況の報告や相談をし、チェックやアドバイスを受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を中心として、入院当初より病院関係者との連携を図り、経過を確認しながら、主治医に相談しつつ、早期退院に向けて情報交換や相談に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には必要に応じて急変時や重度化したときの対応について主治医も含めて確認しあっている。また、対応指針についても説明している。終末期のあり方については、家族・主治医と話し合いを重ね、全員で方向性を共有しながら行っている。	急変時や重度化したときの対応指針を作成し、主治医も含めて家族に説明を行い確認しあっている。終末期のあり方については、家族・主治医と話し合いを重ね、チームで方向性を共有しながら、利用者の重度化に向けた支援に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についての勉強会を開催し日々のケアに繋げている。また、実際に事故や急変があった場合も、カンファレンスを行い、次の実践に繋がるように努力している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当事業所管轄の消防署・近隣住民の方・地域自主防災会の方と連携し、消防訓練と合わせて、災害対策についての勉強も行っている。	所轄の消防署・近隣住民・地域自主防災会と連携し、消防訓練と合わせて災害対策の勉強も行っている。他方、夜間を想定した消防訓練と非常食等の備蓄が十分ではない。	夜間を想定した避難訓練の実施と、非常災害時に備えて、非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保や尊厳を大事にする声かけや対応、記録の表現については、常に確認している。	声かけや誘導時の対応が丁寧で、一人ひとりの尊厳を大切にしている。記録物の管理でも個人の、プライバシーが守られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日・その時で変化する個々のペースや力をしっかり感じ取り、本人がその時の気持ちや意見をきちんと伝えられるような対応・寄り添い方・付き合い方を大事に出来るような支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で時間や対応を決めるのではなく、毎朝希望を聞き、個々のペースに合わせて1日を送ってもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行くことや、教会行きのお洋服選びなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に野菜の皮むきや調理、配膳、食器の後片付けなど、作業への参加を促している。	利用者は、昼食時におかずを注ぎ分けたり、箸の準備やお茶入れ等、作業に参加している。居間の写真からは野菜の皮むき作業の様子が覗える。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量や習慣・嗜好などに配慮しながら、栄養バランスを考えた食事メニューの工夫・水分摂取など様々な工夫をしながら支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけ・誘導を行い、定期的な訪問しかによる専門的な口腔ケアにより、口腔内の異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録により、スタッフ間で情報交換を行い、個々の排泄パターンを知り、定時の誘導に加え、表情や行動により汲み取る努力をしている。また、不快感をできる限り少なくする工夫も布パンツの使用やパッドの使用方法などの工夫をしながら常に話し合っている。	個々の排泄パターンを把握し、定時外にも表情や行動を汲み取りながらトイレ誘導を行っている。また、不快感をできる限り少なくする方法として布パンツとパッドの併用など、アイデアを出し合っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての資料などを参考にしたり、スタッフが個々に持っている情報を持ち寄りミーティングなどで勉強会を行い、薬に頼り過ぎない、食事や水分・トイレでの工夫・排便周期の把握などいろいろな工夫を取り入れるようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調により臨機応変に対応している。また、意思疎通の困難な方には、原則、週3回の入浴を実施している。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤などで工夫している。	原則週3回の入浴日設定であるが、利用者の希望や体調により臨機応変に対応している。季節を感じ楽しんで貰える様に、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤などの工夫を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を知り、休みたいときに休息できる・眠くなるまでソファでゆっくりくつろぐなど、その方にとって気持ちの良い休息・安眠につながるような支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬説明書を基に、内容・目的・副作用・用量・用法を把握している。変更・追加に関しては、日誌・個人記録に記録し情報共有するよう努めている。服薬確認についてはチェック表をもとに行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族との関係を深めていくことでわかってくるその方の生活歴をスタッフ全員で共有し合い、その方のその日・その時に合った役割や楽しみ・気分転換などを生活に取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や散歩、そのときの希望に応じた外出、行事としての外出・外食など行っている。	入居者6人の利を活かして、個別対応が可能である。近くのスーパーへの買出し、馴染みの回転寿司での外食、全員でのコスモス見学、家族と一緒にの外出など、利用者の希望に応じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族としっかり情報交換し、できる限り本人の意志で買い物ができたり、楽しみの時間ができたりするように、スタッフがじっくりそれにつきあえるように努力している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望によって年賀状の作成や電話の援助などで関係継続の支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の暮らしを感じてもらえるよう、特別なものは使用せず、ごく普通の家庭の雰囲気を活かした空間にしている。また、皆さんの外出の思い出写真コーナーなど和みのスペースも作っている。季節ごとの飾りなども楽しめる空間を作っている。	民家の特性を活かして、普段の家庭の雰囲気を感じてもらえる事をモットーとしている。居間や食堂では、台所からのまな板の音や調理の匂いを感じながら、利用者と職員は、家族の様に寄り添い、居心地良い共用空間を醸し出している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓コーナーとソファークーナーがあり、配置などもその時々との関係などで座る位置やくつろぎ方も変化するため、それに合わせて臨機応変に替えられるようにしている。玄関先にもベンチを配置、気候のよいときには夕涼みなども楽しんでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や仏壇・思い出の写真などを入居時に持参してもらっている。	家族の協力を得て、利用者の、馴染みの家具やベッド、仏壇・思い出の写真など、居心地の良い雰囲気づくりが工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作の中で個々が持つ力を充分に使ってもらえるよう、建物内部の環境を整えるとともに、必要に応じて日常生活の中で知恵を出し合い工夫している。		